

科学技術・イノベーションを担う 人材の育成強化に向けた工程表(案)

	目指すべき姿	達成手段(施策)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標
<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"> 「大学改革実行プラン」・「大学ビジョン」に基づく大学改革の推進 </div>							
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 グローバルに活躍できる人材の育成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(1) 教育の質保証システムの確立</div>	<p>◆目指すべき姿</p> <p>学位の質を保証し、社会的信認を高め、国際的な水準で働ける高度な専門人材(研究開発人材を含む)を確実に育成する。</p>	<p>分野別質保障や、評価を通じた教育の質保証・向上の促進</p> <p>大学教育の質的転換 ・学士課程の教育の充実 ・学生の学修成果の把握の取組の推進 ・学修評価、教育に関する教員評価の手法に関する研究・開発</p>	<p>・技術者教育などの分野において国際通用性を踏まえた分野別質保証の取組の充実 ・日本学術会議における分野別参照基準や大学関係団体などの検討を参考に、各分野における教育改善を推進 大学情報の公表の徹底(大学ポートレート(仮称))</p> <p>・評価制度の抜本改革 ・客観的指標の開発</p>	<p>・学生の主体的学びを拡大する教育方法の革新等</p> <p>把握・評価手法の研究・開発</p>	<p>施策要綱に基づく体系的かつ集中的な施策展開 ・コースワークから研究指導へ有機的につながりを持った体系的な大学院教育の確立 ・俯瞰力と独創力を備え、産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの養成 等</p>	<p>・国際的な通用性を備えた大学・大学院の分野別質保証制度を試行。 ・大学・大学院における学習成果を評価する仕組みを試行。 ・大学教員の教育能力・実績評価制度の枠組みの検討(テニュアとの関係との整理)</p>	<p>・国際的な通用性を備えた分野別質保証制度を確立。 ・社会による評価も加えて実効ある学位認定の質保証を確立。 ・大学教員の教育能力・実績評価制度の枠組みを確立。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(2) 大学院の抜本的強化及び博士キャリアパスの多様化</div>	<p>◆目指すべき姿</p> <p>産官学の連携のもと、世界と同一水準(量と質)である体系的な教育プログラムを実施し、国内外の職場にてグローバルに活躍できる人材を学部、大学院にて教育する。 優秀な学生が、家庭の経済的事情に拘わらず博士課程に進学し、課程修了後は社会人として経済的に自立しつつ多様なキャリアパスで社会に貢献する。</p>	<p>第2次大学院教育振興施策要綱に基づく施策の展開</p> <p>リーディング大学院の形成</p> <p>質保証を伴った海外大学との協働教育による交流の推進</p> <p>産学協働人材育成円卓会議などイノベーション・グローバル人材の育成についての産学の対話の促進</p> <p>ポストドクターのキャリア開発の組織的な支援</p> <p>優秀な学生を惹きつけ、学修研究に専念できる環境の整備</p> <p>研究支援体制の核となる研究マネジメント人材の育成</p>	<p>リーディング大学院の展開支援</p> <p>アジア・米国等の大学との協働教育プログラムの構築を支援</p> <p>・各地域・各業界における産学協働のプラットフォームの形成を推進 ・「円卓会議」のアクションプランなどに基づき、イノベーション・グローバル人材の育成に係る各企業・大学の取組を支援</p> <p>・産学連携による人材育成の取組の充実 ・多様なキャリアパスの開発</p> <p>フォローシップ・TA・RA等の経済支援の充実</p>	<p>グローバルに活躍できるリーダー人材を養成する教育プログラムを実施。 ・国際的な枠組みで質保証を伴った海外大学との単位互換・ダブルディグリープログラム等の実施。 ・博士課程(後期)在籍者の2割程度への生活費相当額の経済支援を実現。 ・博士課程在学者の授業料の後払い方式の検討。 ・博士課程修了者の就職状況の公表義務化。</p>	<p>・理系博士号取得者の「完全雇用」を目指す。 ・教育プログラムの修了者の多くのリーダー人材としてグローバルに活躍。</p>		

	目指すべき姿	達成手段(施策)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標
2 国際頭脳循環の戦略的推進 (1) 研究型大学の機能強化	◆目指すべき姿 最高水準の研究者を相当規模擁する研究領域の国際的コアを強化することにより、特色ある研究型大学(Research University)を形成する。これにより、世界から有為な研究人材を吸収し、継続的に研究開発力向上に資する。 また、研究開発法人、産業界等との間の人材循環をより活発にして、知の創造力とイノベーション創出の機能を強化する。	研究型大学における国際的に通用する研究体制の整備、挑戦的研究や人材育成の推進				<ul style="list-style-type: none"> 大学等の研究機関において、海外からの研究者を含む研究領域の国際的コアを構築し、イノベーションの創出を含む強化プランを策定。 世界トップ100位内を目指す研究型大学を特定し、総合的な強化プランを策定。 上記の強化プランにおいて、教員の人材マネジメントの改善(若手・女性・外国人比率等)を導入。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界トップ100位内の研究型大学5以上を実現。 特定分野で世界トップ50に入る研究・教育拠点を100以上構築。
		世界の頭脳が集まるトップレベル拠点の形成、発展					
		世界最先端の研究基盤等の整備及び共用の促進					
		新たな発想や研究手法を取り入れるため、優秀な外国人研究者を招へい					
		若手研究者が参画する国際共同研究・研究交流の機会の充実					
(2) 若手研究者「海外武者修行」の重点的推進及び自立的な研究環境の整備	◆目指すべき姿 若手研究者や博士課程在籍者が海外研究拠点での経験を積む機会を大幅に拡充して、将来の国際頭脳循環の中核を担う研究人材として育成する。 大学等において、優秀な若手研究者のポストが確保され、優秀な若手研究者が絶え間なく養成される体制が整備されている。	若手研究者の海外派遣の促進				<ul style="list-style-type: none"> 若手研究者等の長期派遣、2010年度の1.5倍を実現。 研究型大学における正規教員採用時に外国研究経歴(2~3年)の要件化を検討。 競争的資金制度の一部に「海外共同研究枠」を設定。 テニユア・トラック教員の割合の拡大(全大学の自然科学系の若手新規採用教員数の2割相当を目指す)。 	<ul style="list-style-type: none"> 若手研究者等の長期派遣、2010年度の2倍を実現。 大学における若手研究者のポストの増加。
		若手研究者向けフェローシップや研究費等の支援の充実	特別研究員や若手研究者向けの科研費等の充実				
		テニユアトラック制の普及・定着	テニユアトラック制の普及を支援				
		研究支援体制の核となる研究マネジメント人材の育成					

	目指すべき姿	達成手段(施策)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標
3 大学マネジメント改革の実行 (1) 国立大学法人改革	◆目指すべき姿 質の高い大学を構築するため、基盤となる人事・財務・資産等に関する国立大学法人のマネジメントについて、グローバル水準の迅速性と柔軟性を持った判断・実行ができる環境を整備する。	国立大学改革プランの策定・実行 大学・学部のミッションの再定義 改革促進のためのシステム改革	国立大学基本方針の策定 ○教員養成、医学、工学のミッションの再定義	国立大学改革プランの策定 ○全大学・学部のミッションの再定義	国立大学改革の集中実施	・全国立大学・学部のミッション、目標を再定義することにより、大学毎の機能分化の促進。 ・大学の機能分化に応じた、目標・評価・支援等の枠組みを確立。 ・大学間連携の促進、ガバナンスの強化など、国立大学改革に必要なシステムの改革。	・機能分化に基づく、成果の最大化、競争力の強化を実現。 <例> ・「リサーチ・ユニバーシティ」群の強化 ・機能別・地域別大学群の形成
	◆目指すべき姿 大学の機能分化に基づく多様な評価軸の存在を前提としつつ、教育及び研究の実績評価に基づき、国立大学法人運営費交付金等の配分を行う。	政策目的に基づいた基盤的経費の実現	○各種指標を踏まえて支援対象を絞り込み、予算を重点的に支援(再掲) ※政策目的に基づいた基盤的経費の重点的配分を行う一方、エビデンスに基づき既配分額の減額も行う。	引き続き各種指標を踏まえたメリハリある配分の実施	・予算の戦略的・重点的支援を拡大し、国立大学改革を促進。	・国立大学改革の取組の評価・検証を踏まえた運営費交付金の配分。	

「大学改革実行プラン」・「大学ビジョン」に基づく大学改革の推進

	目指すべき姿	達成手段(施策)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度の 具体的目標	2020年度の 具体的目標
4 多様な人材育成・活用 (1) 次代を担う人材の育成	◆目指すべき姿 理数好きの子ども達の裾野を広げ、優れた素質の人材を発掘し才能を伸ばす。	学校における観察、実験の充実のための環境を整備 先進的な理数教育を実施する高校等の支援の強化 理数分野に関する研鑽・活躍の場の構築・推進や参加支援等、将来の科学技術を担う人材を育成するための基盤の整備 理数分野に関して強い意欲のある学生を支援する取組みの推進	学校における理数教育に関する環境の整備・充実 一体的に推進			・PISA、TIMSS等の指標の向上。 ・国際科学技術コンテスト等への参加者の増加。	・PISA、TIMSS等でトップクラスを確保。 ・国際科学技術コンテスト等でトップクラスを確保。
(2) 女性研究者の活躍促進	◆目指すべき姿 女性研究者の参画により、研究活動が活性化し、組織としての創造力が発揮される環境を作る。	女性研究者の出産・育児等と研究の両立支援、裾野の拡大支援	研究サポート体制の整備、研究中断後の復帰を支援するフェローシップの拡充等			・女性研究者の採用割合の増加(自然科学系全体25%、理学系20%、工学系15%、農学系30%、医歯薬学系30%)。	・女性研究者の採用割合の更なる増加(自然科学系全体30%)。